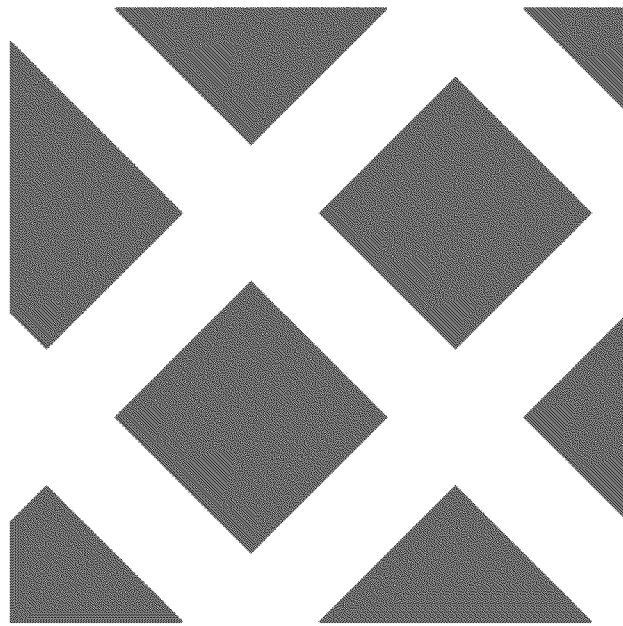


教育委員会事務の点検・評価報告書

(令和3年度)



令和4年9月
萩市教育委員会

■ 目 次

1	教育委員会事務の点検及び評価の趣旨	1
2	点検及び評価の対象	1
3	点検及び評価の方法	1
4	点検及び評価の結果	2
	<事業点検・評価シート>	
No.1	小中学校における教育体制の充実及び児童生徒の学力の向上	2
No.2	小中学校における児童生徒の体力の向上	6
No.3	児童生徒の英語教育の充実	8
No.4	志教育の推進と地域とともにある学校づくり	9
No.5	教育環境の整備	12
No.6	市内高等学校の魅力化支援	15
No.7	生涯学習の基礎づくり	16
No.8	生涯学習の場とひとづくり	20
No.9	生涯学習によるまちづくり	23
No.10	生涯スポーツの推進	26
No.11	競技水準の向上	28
No.12	人材の育成（スポーツ）	29
No.13	スポーツの推進による交流人口の拡大及び地域の活性化	31
No.14	図書館運営を通じた官民協働及び読書活動の推進	33
No.15	家庭・地域・学校・図書館での子どもの読書活動の推進	35
No.16	子どもの読書活動推進のための環境整備及び推進者への支援	38
No.17	読書活動への理解と関心を深めるための啓発活動	41

1 教育委員会事務の点検及び評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律において、教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表しなければならないと定められています。

萩市教育委員会では、当該規定に従い、事務の点検及び評価を実施し、本報告書を作成しました。

2 点検及び評価の対象

次に掲げる事項を令和3年度の点検及び評価の対象として選定しました。

- (1) 小中学校における教育体制の充実及び児童生徒の学力の向上
- (2) 小中学校における児童生徒の体力の向上
- (3) 児童生徒の英語教育の充実
- (4) 志教育の推進と地域とともにある学校づくり
- (5) 教育環境の整備
- (6) 市内高等学校の魅力化支援
- (7) 生涯学習の基礎づくり
- (8) 生涯学習の場とひとづくり
- (9) 生涯学習によるまちづくり
- (10) 生涯スポーツの推進
- (11) 競技水準の向上
- (12) 人材の育成（スポーツ）
- (13) スポーツの推進による交流人口の拡大及び地域の活性化
- (14) 図書館運営を通じた官民協働及び読書活動の推進
- (15) 家庭・地域・学校・図書館での子どもの読書活動の推進
- (16) 子どもの読書活動推進のための環境整備及び推進者への支援
- (17) 読書活動への理解と関心を深めるための啓発活動

3 点検及び評価の方法

前項に掲げる事項について、点検・評価シートにより、各項目の実施状況に係る成果を検証し、今後の取組について検討しました。

また、点検及び評価の実施にあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、萩市ひとづくり構想推進委員会において、意見をいただきました。

4 点検及び評価の結果

令和3年度 点検・評価シート

NO. 1

項目	小中学校における教育体制の充実及び児童生徒の学力の向上	担当課	学校教育課
目的・目標	<p>各学校の学力向上プランに基づく授業改善の取組を推進するとともに、校種間及び家庭・地域との連携・協働により、児童生徒に確かな学力を身に付けさせる。また、児童生徒数の推移を鑑み、小規模校における複式指導の一層の充実を図る。</p> <p>いじめや不登校等の生徒指導上の諸課題に対して、専門家との連携を図りながら、子ども相談・支援室を中心とした生徒指導・教育相談体制の充実を図り、学校の組織的な対応を支援する。</p>		
実施状況・成果	<p>1 コミュニティ・スクールの仕組みを基盤とした小中一貫教育の推進</p> <p>(1)小中連携カリキュラムを作成している中学校区</p> <p>(2)学校・地域連携カリキュラムを作成している中学校区</p> <p><u>令和3年度 100% (目標値: 100%)</u></p> <p>多くの中学校区で、小中共通の学校教育目標や目指す子どもの姿、重点取組事項等を設定し、学校・地域連携カリキュラムをもとに、コミュニティ・スクールの仕組みを生かして義務教育9年間の一貫した教育活動を展開することができている。</p> <p>○小中一貫教育校として指定している学校</p> <p>三見小中学校、大井小中学校、大島小中学校、相島小中学校(休校中)、見島小中学校、福栄小中学校、川上小学校・川上中学校、※越ヶ浜小学校・越ヶ浜中学校、※小川小学校・多磨小学校・田万川中学校(※印は、令和3年度末に小中一貫教育校として指定した学校)</p> <p>2 主体的・対話的で深い学びの実現、複式指導の充実</p> <p>(1)全国学力・学習状況調査実施全教科において全国平均を上回る。</p> <p><u>令和3年度調査における正答率の全国平均との比較</u></p> <p><u>[小学校] 国語(+3.7ポイント) 算数(△0.2ポイント)</u></p> <p><u>[中学校] 国語(+1.4ポイント) 数学(△0.2ポイント)</u></p> <p>小学校・中学校とも、国語は全国平均を上回り、算数・数学は概ね全国平均と同程度であった。</p> <p>小学校の国語では、「目的や意図に応じて資料を用いて話すこと」、「語句の使い方を理解し、話や文章の中で正しく使うこと」などの正答率が高く、算数</p>		

では、「棒グラフから数量を読み取ったり、項目間の関係を読み取ったりすること」「条件に合う時刻を求めること」などの正答率が高かった。

中学校の国語では、「話合いの話題や方向を正しく捉えること」、「文脈に即して、漢字を正しく使うこと」などの正答率が高く、数学では、「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ること」、「問題場面における考察の対象を明確に捉えること」などの正答率が高かった。

萩市は、小学校における複式学級を有する学校数が年々増加しているが、萩市教育委員会が作成している複式指導サポートブックを活用し、複式学習指導員による学校訪問及び指導助言を通して、若手教員や複式指導未経験教員が効率的かつ短時間で複式指導のノウハウを習得できている。

3 いじめ、不登校、暴力行為等への対応

(1)いじめの解消率

令和3年度 小学校100%、中学校96.8% (目標値100%)

小中学校の生徒指導上の諸課題の解決に向け、子どもに関わる相談や支援の充実に努めた。

いじめについては、小学校で60件、中学校で63件（前年度件数：小学校45件、中学校70件）認知された。各学校では、教育相談や生活アンケートを定期的に行い、児童生徒から出た意見や悩みについて迅速に対応することに努めた。保護者からの訴えにより、いじめを認知することもあり、その際は保護者から状況を細かく聞き取りながら、迅速に対応することに努めた。

未然防止の観点からは、学級活動や児童・生徒会活動において主体的に仲間同士で協力して取り組む活動の機会を仕組み、他者から認められ、他者の役に立つという「自己有用感」が感じ取れる絆づくりを進めることに努めた。

小学校で、児童間のトラブルをいじめと認知した件数が増加したが、早期に校内いじめ対策委員会を開き、スクールカウンセラーを派遣しケース会議を開くなど、どのケースも学校全体で組織的に対応し、解消に努めてきた。

中学校では、2件を未解消事案として扱っている。これは、いじめの行為は止まっているが、被害者の不安な気持ちが完全には消えていないということであり、引き続き、当事者の不安解消に向けて、学校や保護者、関係機関等と連携しながら、子どもへの適切な指導及び必要な支援を継続している。

(2)不登校、暴力行為の出現率・発生率の減少

児童生徒100人当たりの不登校・暴力行為の件数 ※（ ）内は前年度

・小学校：不登校 0.69 (0.17)、暴力行為 0.12 (0.28)

・中学校：不登校 3.09 (3.74)、暴力行為 0.33 (0.43)

	<p>不登校（年間30日以上欠席）の児童生徒数は、小学校で11人、中学校で28人（前年度件数：小学校3人、中学校35人）であった。</p> <p>小学校で不登校がやや増加傾向であるが、朝、登校しぶりを見せる児童が増加した結果であると捉えている。学校では、保護者と密に連絡を取り合い、家庭と連携した対応により、登校を促すことに努めている。</p> <p>不登校の理由は個別の事案ごとに様々であるが、関係機関と連携して対応した事案については、子ども相談・支援室が参加するケース会議を開催し、継続的な支援を行った。教室復帰を目指す児童生徒については、萩輝きスクールにおいて、経験豊富な6人の支援員が支援するとともに、保健師、児童相談所の心理士、医療機関等と連携し、当該児童生徒の保護者の支援に当たった。</p> <p>暴力行為は、小学校で2件、中学校で3件（前年度件数：小学校5件、中学校4件）発生した。暴力が発生した原因としては、言葉によるコミュニケーションを苦手とする児童・生徒が、他者の言動に対して感情的になり、暴力行為に直結してしまうことが挙げられる。件数が少ない理由としては、学校内や関係機関と連携しながら、個に応じた適切な支援等を行い、未然防止に取り組んだ結果と考えている。</p>
<p>今後の取組</p>	<p>1 小中一貫教育の推進</p> <p>児童生徒に身に付けさせたい資質・能力の定着が確実に図られているか否かの検証を進め、必要に応じて教育活動の工夫・改善を加えていくことができるよう支援する。今後も、地域の教育資源を生かした各地域ならではの特色ある教育の実現に向け、全ての中学校区で小中一貫教育を推進する。</p> <p>2 主体的・対話的で深い学びの実現、複式指導の充実</p> <p>授業評価について、適切に実施されるよう全小中学校に周知を図る。</p> <p>全国学力・学習状況調査等の結果について、誤答分析を行い、児童生徒の課題を把握するとともに、当該分析結果を授業改善に生かす取組を進める。</p> <p>一人一台端末の整備に伴い、これまで「調べる」、「練習する」ことが中心であった学習活動に加えて、「まとめる」、「発表する」などの学習活動を意図的・計画的に取り入れる。</p> <p>また、教職員対象の研修会の開催により、スキルアップを図るとともに、ICTを活用した授業改善指導員による学校訪問を行い、機器の利活用を進めていく。</p> <p>複式指導では、複式学習指導員による学校訪問により、特に、初めて複式指導に携わる教員を中心に指導助言を行う。</p> <p>3 いじめ、不登校、暴力行為等への対応</p>

	<p>いじめについては、子ども相談・支援室が継続的に全小中学校を訪問し、未然防止の取組を徹底するとともに、各校のいじめ対策会議に参加するなど、関係機関と連携を図り、いじめの早期発見・早期対応に努める。特に、SNS上のトラブルが増加傾向にあることから、未然防止の取組や、保護者への啓発に努める。</p> <p>不登校の対応については、不登校の未然防止・早期対応の観点から、中学校区内で学校間の児童生徒の情報共有を緊密に行うことや、自己有用感を高める教育活動等を通じた児童生徒の居場所づくりや絆づくりの取組を推進していく。</p> <p>また、不登校対策に特化した会議を開催し、新規不登校を出さないために、講義や演習を通して教職員のスキルアップを引き続き行っていく。</p> <p>不登校児童・生徒に対しては、電話連絡や家庭訪問を行い、本人や保護者と連絡を取り合いながら、登校に向けた支援を継続する。また、オンラインを活用した授業や健康観察等を効果的に行うことで、学校復帰に向けた支援を行っていく。</p> <p>暴力行為への対応については、新規の発生を防止するため、中学校区内で学校間の情報共有に努めるとともに、教職員のスキルアップを目指した校内研修を充実させるため、専門家等との連携を図りながら進めていく。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・萩輝きスクールは学校復帰が目標であるが、児童生徒の特性等も考慮し、まずは家庭に引きこもらずに通うことを第一に考えてほしい。 ・萩輝きスクールについて、授業のオンライン配信、部分復帰などの取組について評価できる。今後も、萩輝きスクールと教育委員会事務局が連携して、萩輝きスクールに通っている生徒と学校とのつながりが深まるよう、登校に向けた支援を行ってほしい。 ・全国的にSNSいじめが問題となっているため、家庭と連携して、情報モラル教育を進めてほしい。 ・タブレット端末を活用した家庭学習を進めてほしい。

項目	小中学校における児童生徒の体力の向上	担当課	学校教育課
目的・目標	<p>各校で作成されている体力向上プログラムのもと、体育・保健体育の授業をはじめ、それ以外の時間にも、「一校一取組」により児童生徒の基礎体力の向上を目指す。健康増進課等と連携した食育を推進し、食生活の改善及び望ましい生活習慣づくりを通して、児童生徒の健康な身体づくりへの意識向上を図る。</p>		
実施状況・成果	<p>1 基礎体力の向上</p> <p>(1) 体力についての課題改善に、全校的に取り組む学校の割合 <u>令和3年度 100% (目標値: 100%)</u> 各校の児童生徒の体力的な課題に基づく運動を継続的に実施するよう指導した。</p> <p>2 望ましい生活習慣の形成</p> <p>(1) 毎日、同じ時刻に寝る子ども(定時就寝)の割合 <u>令和3年度調査における肯定的回答率の全国平均との比較</u> <u>[小学校] 80.7% (+1.5ポイント)</u> <u>[中学校] 83.0% (+3.2ポイント)</u> 小学校・中学校ともに、全国平均を上回った。栄養教諭や養護教諭と連携した生活指導や食育指導を積極的に推進し、生活習慣のチェック及び改善を保護者とともに実施した成果の表れであると捉えている。</p>		
今後の取組	<p>1 基礎体力の向上</p> <p>全国体力・運動能力、運動習慣等調査で明らかになった児童生徒の課題に基づき、必要な補強運動や適切な運動量の確保による基礎体力の向上を目指す。</p> <p>2 望ましい生活習慣の形成</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策を引き続き徹底して行うとともに、児童生徒がウィズコロナの新しい生活様式を身に付け、安心・安全な学校生活を送れるよう学校を支援する。</p> <p>携帯電話・スマートフォンやコンピュータ(ゲーム)の使い方について、家庭で約束を決めて守っていくことなどに課題が見られることから、望ましい生活習慣の確立を目指した取組を中学校区単位で行うなど、校種間連携により義務教育9年間の持続可能な仕組みを確立していく。</p>		
学識経験者の意見	<p>・小学校あるいは幼児の段階から、スマートフォン、タブレットの使用が増えている。家庭での指導が原則と思うが、学校でも、情報モラル教育を含め、発達段階に</p>		

応じた指導を行ってほしい。

項目	児童生徒の英語教育の充実	担当課	学校教育課
目的・目標	<p>グローバル化が進展する中、英語の語学力の向上はもとより、コミュニケーション能力や情報発信力、広い国際的な視野とともに、異文化への理解、異なる文化をもつ人々と協働して生きていく態度等を身に付けた人材を育成する。</p>		
実施状況・成果	<p>1 児童生徒の英語教育の充実</p> <p>(1)中学校卒業時に英検3級以上に合格した生徒の割合</p> <p><u>令和3年度 46.6% (昨年度28.8%) (目標値：50%以上)</u></p> <p>前年度はコロナ禍で、中学校卒業時に英検3級以上に合格した生徒数が大幅に落ち込んだが、令和3年度は目標値に近い数値まで引き上げることができた。2人の英語学習指導員による放課後及び夏休み英検チャレンジ教室を開催し、「やりとり」、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の4領域のバランスのとれた学力が身につくよう支援した結果であると捉えている。</p> <p>また、教員の英語指導力を高めるために、英語教育に携わる全小学校教諭を対象に体験を通して具体的な指導法を学ぶ研修会を実施した。</p>		
今後の取組	<p>1 児童生徒の英語教育の充実</p> <p>英検について、引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら受検を勧奨し、受検者数の増加はもとより、英語学習への関心及び意欲の向上に努める。</p> <p>教員の英語指導力を高めるため、小学校教員を対象にした英語教育研修会や夏休み英語スキルアップ研修の充実を図る。</p> <p>ここ2年は、小学生対象のイングリッシュ・キャンプをコロナ禍で開催できなかったため、開催方法を工夫していく。</p>		
学識経験者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の英検チャレンジ教室等の取組で目標値に近い成果が出ており、評価できる。今後の取組に記載している、小学校教員を対象にした研修会等を、是非、進めてほしい。 ・オンライン等を活用し、ネイティブな英語に触れあえる機会を増やしてほしい。 ・目標の見直し時には、英検だけでなく、TOEIC、TOEFLについても取り入れてほしい。 ・日本語の豊かな表現や美しい言葉遣いが消えてきているように感じる。英語教育だけでなく、美しい日本語に触れる機会を充実してほしい。 		

項目	志教育の推進と地域とともにある学校づくり	担当課	学校教育課
目的・目標	<p>コミュニティ・スクールの仕組みを生かし、地域の人的・物的資源を有効活用した学習活動を通して、郷土に誇りと愛着をもち、地域に貢献する子どもたちの育成を目指す。生まれ育った萩のことを様々な観点から学び、地域社会の一員として自覚をもち、自分にふさわしい生き方を実現しようとする意欲や態度、能力を育成する志教育を進める。</p>		
実施状況・成果	<p>1 キャリア教育の推進</p> <p>(1)将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合の向上</p> <p><u>令和3年度調査における肯定的回答率の全国平均との比較</u></p> <p><u>[小学校] 80.8% (+0.5ポイント)</u></p> <p><u>[中学校] 73.6% (+5.0ポイント)</u></p> <p><u>(計画策定時：平成30年度 小学校88.0%、中学校78.5%)</u></p> <p>小学校・中学校ともに、全国平均を上回っているが、計画策定時の値からは下がっている。</p> <p>各校とも新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を十分講じた上で、二分の一成人式や立志式をはじめ、職場見学・職場体験、職業講話を実施しており、生まれ育った萩のことを様々な観点から学べるような機会を提供した。</p> <p>地域の農事組合法人等と連携して田植え、稲刈り等の体験を実施したほか、地域に誇りと愛着をもって働く人々と接することで、萩を誇りに思う心情の育成に努めた。</p> <p>2 コミュニティ・スクールとしての取組の充実</p> <p>(1)地域の行事に参加する児童生徒の割合の向上</p> <p><u>令和3年度調査における肯定的回答率の全国平均との比較</u></p> <p><u>[小学校] 80.7% (+22.6ポイント)</u></p> <p><u>[中学校] 72.9% (+29.2ポイント)</u></p> <p><u>(計画策定時：平成30年度 小学校83.2%、中学校76.5%)</u></p> <p>小学校・中学校ともに、全国平均を上回っているが、計画策定時の値からは下がっている。新型コロナウイルス感染症拡大により、児童生徒の地域行事への参加・協力の機会が減ったことが要因だと思われるが、学校運営協議会に児童生徒が参加して、これまでの取組を見直す熟議を行うなど、児童生徒参画型の行事計画を進めた学校が多かった。</p>		

3 ふるさと学習の展開

(1)地域の自然・歴史・文化・産業・人材を活用した学習を実施する学校の割合
令和3年度 100% (目標値: 100%)

地域を学習の場として地域人材を活用した教育活動を展開し、地域の歴史、自然、産業等を継承・発展させる心情を育む取組を実施した。

① 明倫小学校、椿東小学校

松陰教学及び松下村塾の志を取り入れた教育

② 大島小中学校

萩大島ふるさと創造科を基軸としたキャリア教育

③ 椿西小学校

SDGsの視点で地域資源を活用した教育活動

④ むつみ中学校

豊かな森林資源を活用した体験学習

⑤ 須佐中学校

須佐地域の魅力再発見プロジェクト

⑥ 川上小・中学校

阿武川学習を通じた教育の推進

萩市内の優れた文化施設及び文化財等を学校教育で活用する体験学習を実施した。また、小中学生に副読本(小学3年生「わたしたちのふるさと萩」、小学4年生「松陰読本」、中学1年生「郷土萩」)を配布し、副読本を活用したふるさと学習を実施した。

施設見学実績 ① 萩博物館 7校

② 萩・明倫学舎 3校

③ 世界遺産関連地 1校

④ ジオパーク関連地 3校

⑤ 山口県立萩美術館・浦上記念館 4校

今後の取組

1 キャリア教育の推進

キャリア・パスポートの活用を通して、子どもの成長を異校種との連携や地域とのつながりの中で実感できるような支援に努めていく。

また、ライフキャリア教育を重点取組とし、社会や地域の一員としての自覚をもった子どもの育成を目指し、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」児童生徒の割合を増加させることを新たな成果指標として設定し、取組を強化していく。

	<p>2 コミュニティ・スクールとしての取組の充実</p> <p>「社会に開かれた教育課程」の理念の実現に向け、学校運営協議会の機能を生かした教育の充実に努める。目指す子どもの姿や身に付けさせたい資質・能力を共有し、熟議等を通して教育活動の検証・改善を進め、「学校・地域連携カリキュラム」の更なる充実を目指した支援に努める。</p> <p>3 ふるさと学習の展開</p> <p>「学校・地域連携カリキュラム」を軸として、萩市の特色である世界遺産やジオパーク関連地など、萩の自然や歴史、文化等を活用した探究的な学びを推進する。</p> <p>また、令和3年度に改訂した副読本（小学校：「わたしたちのふるさと萩」、中学校：「郷土 萩」）を活用し、新学習指導要領の趣旨を実現するふるさとへの誇りと愛着を育む心情を育てる。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の取組として、ライフキャリア教育を重点取組とし、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」児童生徒の割合を増加させることを新たな成果指標として設定することは評価できるので、是非、取り入れてほしい。 ・ささラブ応援隊の活動など、親が地域活動に取り組む姿勢を子どもたちに見せることで、成長につながることもある。大人が取り組んでいることを子どもたちに伝えていくことも大事である。

項目	教育環境の整備	担当課	教育政策課
目的・目標	安全な教育環境のもとで、児童生徒が安心して学習することを目指し、計画的な施設整備及び維持管理を実施するとともに、一人一台端末の整備を行い情報化の進展に対応した機器整備等を実施し、安全で質の高い教育環境の整備及び充実を図る。		
実施状況・成果	<p>1 学校施設整備・充実</p> <p>(1)学校トイレの洋式化率（児童生徒20人当たり洋式便器数1.0以上） <u>令和3年度 67.65%（目標値：100%）休校中含む</u> <u>76.67%（目標値：100%）休校中除く</u> 令和4年度より実施する椿東小学校トイレ洋式化事業を予算化した。</p> <p>(2)学校施設照明のLED化率 <u>令和3年度 32.35%（目標値：100%）休校中含む</u> <u>36.67%（目標値：100%）休校中除く</u> 明倫小学校、椿東小学校、越ヶ浜中学校、大井小中学校、田万川中学校のLED設置工事を実施するとともに、白水小学校、三見小中学校、むつみ中学校のLED設置工事の設計を行った。</p> <p>(3)児童生徒1人1台PC端末の整備率 <u>令和3年度 100%（目標値：100%）</u> 令和2年度に整備したタブレット端末の活用にあたり、臨時休業などの緊急事態や持ち帰り学習の際に、学校と児童生徒が双方向通信できるよう、モバイルルーターを導入した。</p> <p>(4)その他</p> <p>①予防保全事業 実施施設…むつみ中学校管理棟・普通教室棟</p> <p>②施設整備事業</p> <p>ア 明倫小学校……………駐車場区画線整備工事 イ 越ヶ浜小学校……………給水管布設工事 ウ 白水小学校……………玄関庇工事 エ 川上小学校……………高圧受変電設備改修工事 オ 育英小学校……………空調機設置工事、高圧ケーブル更新工事 カ 田万川中学校……………駐車場街路灯復旧工事 キ 須佐中学校……………建具改修工事</p>		

	<p>ク 明木小・旭中学校…防球ネット支柱建替工事</p> <p>③感染対策事業</p> <p>蛇口改修工事を実施</p> <p>2 安心・安全な学校給食の提供</p> <p>(1) 県産食材使用率</p> <p><u>71.9% (目標値70%以上)</u></p> <p>食育及び地産地消の推進を図るため、萩産の食材を活用する「萩まるごと食べちゃろうデー」及び「地場産食材(県産100%)メニュー」を実施した。</p>
<p>今後の取組</p>	<p>1 学校施設整備・充実</p> <p>安全で快適な教育環境整備事業として、エネルギー消費量の削減を目指した学校施設のLED照明への転換を計画的に行い、特別教室等への空調設備の整備の検討を行う。また、生活様式の変化や、障がい者、性的マイノリティの子ども達等への配慮として、洋式トイレ等の整備を計画的に実施し、教育環境の充実を図る。</p> <p>引き続き、計画的に電子黒板や教職員用のパソコンの更新、大型提示装置の整備を進め、教育環境の改善を図る。また、教職員の業務の効率化を図り、教職員が児童・生徒と向き合う時間が確保され教育の質的向上につながる校務支援システムを県内市町等と共同で導入する。</p> <p>2 安心・安全な学校給食の提供</p> <p>安心・安全な学校給食を提供するため、職員研修を通じ、職員の意識や技術の向上を図るとともに、衛生管理を徹底する。</p> <p>また、アレルギー食の提供においては、職員間での情報共有や、調理ライン及びチェック体制の再点検を行うことにより、徹底したアレルギー対応を行う。</p> <p>関係機関と産地情報交換会を毎月行い、引き続き「萩まるごと食べちゃろうデー」を実施する等、地元産食材の使用に努め、地域の特色を生かした献立を用いた食に関する指導を更に充実させ、地域の食文化についての理解を深めさせる。</p> <p>また、コロナ禍において、原油価格・物価高騰等の影響により、食材価格が高騰していることから、食材価格の高騰相当分を支援するなど、これまでと同様に栄養バランスや地産地消に配慮した給食の提供に努める。また、今後の給食費の単価について見直しの検討を行う。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策の長期化によるマスク生活の影響について、留意してほしい。 ・他県では、給食に使用する食材や食べ残しの指導に対する不安により、学校に行きづらいと感じる児童生徒がいるという情報があるので、留意してほしい。 ・食材価格の高騰対策については、是非、進めてほしい。

- ・現在の給食費単価で、栄養価や県産食材使用率、より安全な食材の使用など、全ての要求を満たすことは難しいので、給食費単価の見直しは仕方がない。
- ・洋式化率の計算方法を見直してはどうか。

項目	市内高等学校の魅力化支援	担当課	教育政策課
目的・目標	<p>中学生が地元の高校に進学しやすい環境を整えることや、市内高校と中学校の連携強化を図ることにより、地元高校への進学率の向上を目指す。</p>		
実施状況・成果	<p>1 地元の高校へ進学しやすい環境の整備</p> <p>(1) 萩市内中学生の萩圏域の高等学校への進学率</p> <p><u>令和3年度市内中学校卒業生75.1% (目標値80%)</u></p> <p>高校に遠距離通学する高校生を対象にした列車・バス定期代の一部助成のほか、離島等に居住する通学困難な女子高生を対象とした女子寮の運営等、市内高校への進学を支援する事業を実施した。</p> <p>市内高等学校、市立中学校及び教育委員会が高校魅力化への方策を協議する場（高校魅力化プロジェクト会議）を設け、連携して市内高等学校への進学者確保のための取組を協議した。また、市内高等学校に地域連携サポーターを配置し、市内高等学校の情報発信、探究活動の支援を行った。</p>		
今後の取組	<p>1 地元の高校へ進学しやすい環境の整備</p> <p>引き続き市独自の施策として、市内高校への進学を支援する事業を実施する。</p> <p>また、地域連携サポーターの活動により、中学生が市内の高校へ進学したいと思う環境づくりを推進する。</p> <p>継続して、高校魅力化プロジェクト会議により、中学校、高校及び教育委員会の連携強化を図る。</p> <p>市内や市外、県外からの志願者が安心して市内高校に進学できるよう、高校生の住居確保の援助及び住環境の充実のため、高校生の住環境の整備について検討を進める。</p>		
学識経験者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・住居確保について、毎年の課題となっており、特に男子寮について、早急に確保してほしい。 ・部活動をする生徒は、遠方からの通学が難しいので、住居整備をしてほしい。 		

項目	生涯学習の基礎づくり	担当課	文化・生涯学習課
目的・目標	<p>生涯にわたって、市民一人ひとりが学習しようとする意欲を高め、幼児期から成人期に至るまで、ニーズに応じた学習機会を提供する環境を整備する。</p> <p>とりわけ、親学講座等による家庭教育力の向上を図る取組、地域の中で受け継がれ、守られてきた文化や伝統を次代へ継承する活動への支援、学習成果を発表する場でもある公民館等の社会教育施設の整備の3点を中核に、市民と行政が協働した取組を推進する。</p>		
実施状況・成果	<p>1 家庭教育力の向上</p> <p>(1)親学講座、子育て講座、保護者カフェの開催 <u>令和3年度実施回数 44回（目標値：年間70回以上）</u> （子育て講座34回（内保護者カフェ6回） 親学講座10回） <u>令和3年度参加者数 997人（目標値：2,200人以上）</u> 保育園及び各小中学校の参観日、就学時検診等を活用した子育て講座及び公民館等における未就園児とその保護者を対象とした親学講座の実施により、子育てに係る悩みの解消を図る等、家庭での子育てを支援した。 また、保護者同士の繋がりをつくり、不安を取り除くという目的のため、子育て講座において保護者カフェも同時開催した。（家庭教育支援チーム主催）</p> <p>(2)子ども情報誌「あ、そ、ぼ」の発行 <u>令和3年度 6回（目標値：年間6回以上）</u> 幼児から中学生までの子ども及び保護者を対象とした、様々な子育てイベント情報を提供する情報誌の発行を行った。（5,000部/回 発行）</p> <p>(3)NPO萩子どもセンター事業への支援 <u>令和3年度実施事業 160回（目標値：年間165回以上）</u> 子どもの諸活動支援事業（99回）、子育て支援事業（61回）、子どもと文化に関する活動広報紙（13,590部/年）の発行を行った。</p> <p>(4)家庭教育支援チームの立ち上げ支援 令和3年度登録チーム数 3チーム 萩市全体をカバーする家庭教育支援チーム「はぐくみ」の立ち上げを支援した。</p> <p>2 地域文化の継承及び保護・活用</p> <p>(1)伝統芸能フェスティバルの開催</p>		

令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した。

(目標値：出演団体数 11団体以上、来場者数 300人以上)

(2)萩市美術展の開催

令和3年度出展作品数 小中学生の部 764点、高校・一般の部 96点
招待作家作品展示数 31点 計891点

令和3年度入場者数 2,829人

市民の美術作品等を募集・展示する美術展を開催することにより、地域に根ざした文化・芸術活動の推進を図った。

(3)伝統芸能・地域文化教室の支援

令和3年度実施小学校数 17校(100%)

各小学校で実施している、伝統芸能及びふるさとの歴史、史跡探訪等、調査、研究活動に対して、各公民館が協力、連携を行った。

3 市民協働による生涯学習の環境づくりの推進

(1)社会教育施設の充実

公民館等施設の整備に係る整備内容の公表の実施

- ・大島公民館整備事業(令和3年11月供用開始)

老朽化した大島公民館・出張所及び診療所の建て替えに併せ、介護予防コーナーを一体的に整備した。

- ・見島ふれあい交流センター(見島公民館)…手摺取付工事
- ・田万川コミュニティセンター(江崎公民館)…外壁補修工事
- ・むつみコミュニティセンター(高俣公民館)…多目的ホール・玄関ホール排煙窓修繕
- ・弥富交流促進センター(弥富公民館)…空調機、換気扇修繕
- ・旭マルチメディアセンター(明木公民館)…昇降機保護装置設置、外階段転落防止柵改修工事
- ・むつみコミュニティセンター(高俣公民館)、むつみ農村環境改善センター(吉部公民館他)…公民館等照明設備改修設計業務
- ・川上公民館…(耐震診断業務)

(2)自主活動・市民活動の推進

合同作品発表会の開催

令和3年度出展団体数 83団体(目標値：15団体以上)

生涯学習の推進と個人又はグループの創作意欲の向上のため、日ごろの生涯学習活動の発表の場として、作品展を開催した。

(3)生涯学習運営体制の充実

	<p><u>社会教育委員会議の開催 令和3年度 2回（目標値：年間3回以上）</u> <u>公民館運営審議会の開催 令和3年度 22回（目標値：年間25回以上）</u></p> <p>官民協働の生涯学習の推進のため、生涯学習への理解を深め、地域の課題や住民のニーズを把握し、それを事業に反映させるため、社会教育委員会議等を開催し、生涯学習の推進に努めた。</p> <p>地域住民からなる公民館運営審議会を組織し、公民館における各種事業の企画運営について審議する等、住民と行政が意見を交えながら生涯学習を推進する体制を整備し、積極的な活動を実施した。</p> <p>(4) 市民協働による生涯学習の推進</p> <p><u>公民館まつり等の開催</u> <u>令和3年度参加者数1,336人（目標値：年間12,000人以上）</u> <u>公民館運営審議会の開催 22回（目標値：年間25回以上）（再掲）</u></p> <p>公民館まつりを開催し、地域住民、団体相互の交流や活動の発表の場づくりを行った。</p>
<p>今後の取組</p>	<p>1 家庭教育力の向上</p> <p>様々な媒体を活用した情報発信を行うことで、安心して子育てができる環境を整え、これまでの取組をより充実・発展したものにする。また、子育て世代が孤立しないような体制を構築し、参加しやすい日程等の検討を行う。</p> <p>令和3年度末において、家庭教育支援チームが3団体登録されており、今後もやまぐち型家庭教育支援チームの立ち上げに向け、学校・家庭・地域と連携を深める。</p> <p>2 地域文化の継承及び保護・活用</p> <p>本市がもつ文化・芸術をより一層向上・普及させていくために、市民団体等による文化イベントの開催等に対する支援を継続していくことで、市民が文化・芸術活動に参画・鑑賞する機会を創出する。</p> <p>また、社会教育の立場から、地域ゆかりの文化資源や歴史・文化遺産の活用及び地域の中で継承されてきた伝統芸能、文化の保存を支援していくことで、市民一人ひとりのふるさとに対する愛着を育む。</p> <p>3 市民協働による生涯学習の環境づくりの推進</p> <p>各公民館及びコミュニティ施設の点検を実施し、引き続き、適切な施設管理を行い、必要に応じて、計画的に改修を進め、未耐震施設の整備・改修を含めた施設の延命化を図る。加えて、施設利用の利便性の観点から、バリアフリー化・トイレの洋式化などの整備について、計画的に取り組む。</p> <p>生涯学習の体制を充実させるべく、社会教育委員会議や公民館運営審議会の場において、生涯学習に係る課題や解決策を協議し、市民と協働した生涯学習の環境づく</p>

	<p>くりを推進する。</p>
<p>学識経験者の 意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て講座等については、意識の高い家庭は参加されていると思うが、参加されない方々をどのように支援していくのか。そういった家庭に目を向けてほしい。 ・家庭教育支援チームや保護者カフェで、親が孤立しないような取組を行っている。現在は、中心部の活動が多いが、今後、各地域でこうした取組が広がるようにしてほしい。 ・県子連で、伝統芸能継承への補助制度があるため、補助申請主体である子ども会の存続について検討してほしい。

項目	生涯学習の場とひとづくり	担当課	文化・生涯学習課
目的・目標	<p>市民一人ひとりの多様な学習ニーズに応える学習機会を提供するとともに、学習を支援する人材や指導者の育成及び情報発信に積極的に取り組む。</p> <p>学習機会の提供においては、心豊かで健全な人格形成を図るため、地域、学校、家庭が連携し、各年代のニーズに応じた講座や教室の開設に向けた支援を行う。</p> <p>また、地域人材や地域素材を有機的に結びつけることで、次世代の育成に努め、多くの経験・知識・技能が継承される仕組みづくりを構築する。加えて、誰もが生涯学習の機会にふれることができる情報発信に努め、好機を逃さない情報提供に努める。</p>		
実施状況・成果	<p>1 ニーズに合った学習機会の提供及び学習成果を発揮する機会の創出</p> <p>(1) 公民館各種講座の開催 <u>令和3年度実施回数 310回 (目標値：年間450回以上)</u></p> <p>(2) 至誠館大学との共同講座の開催 <u>令和3年度実施回数 4回 (目標値：年間5回以上)</u> 各公民館等で、住民からの様々なニーズによる講座・教室の開設に努めた。</p> <p>2 青少年の生涯学習の推進</p> <p>(1) 未来を切り拓くひとづくりセミナーの開催 <u>令和3年度参加者数 760人 (目標値：年間1,000人以上)</u> (※市内全中学校、1高等学校と講師をオンラインで結び実施。会場での開催は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止。) 2月9日開催 講師 青山学院大学 地球社会共生学部教授 陸上競技部長距離ブロック監督 原 晋 氏 演題 「フツの会社員だった僕が、青山学院大学を箱根駅伝優勝に導いた47の言葉」 菽市ひとづくり構想を踏まえ、青少年等がこれからの人生の力となり、豊かな気持ちを育むヒントになることを願って開催した。</p> <p>(2) 放課後子ども教室の開催 <u>令和3年度実施回数 860回 (目標値：年間1,150回以上)</u> 市内全ての児童を対象として、安全・安心な子どもの居場所を設け、地域の方々の参画を得て、学習やスポーツ、文化活動、地域住民との交流活動等を行った。</p> <p>(3) ユースふれあいスペース事業の実施 <u>令和3年度実施回数 138回 (目標値：年間130回以上)</u></p>		

県内では、萩市のみが実施する事業であり、様々な事情により高校等を中途退学や進学できなかった青少年に対し、居場所づくりを目的とした自立に向けた指導、支援を行った。

3 高齢期の学習活動の推進

(1) 高齢者教室・健康教室の開催

令和3年度実施回数 96回 (目標値: 年間170回以上)

(2) 高齢者教室作品展の開催

令和3年度出展作品数 80点 (目標値: 120点以上)

高齢者教室、健康教室等を開催し、健康疾病予防等に関する教育の機会や、生きがいづくりにつながる講座等の充実を図った。

4 地域の人材発掘と養成

(1) 放課後子ども教室の開催

令和3年度指導者登録数 93人 (目標値: 年間170人以上)

「地域の子どもは地域で育てる」を目標に、放課後又は休日に放課後子ども教室を開催し、安心・安全な居場所づくりを推進した。

5 生涯学習の情報発信

(1) 広報はぎ、公民館だより、FMはぎ等による情報発信の実施

令和3年度公民館だよりの発行回数137回 (目標値: 年間110回以上)

生涯学習につながる各種講座、行事等について、各公民館だより、広報はぎ、ホームページ、まちづくりメニュー等の各種メディアを通じ、広く情報発信した。

今後の取組

1 ニーズに合った学習機会の提供及び学習成果を発揮する機会の創出

様々な年代のニーズに沿った学習機会及び学習内容の充実に努め、地域社会に貢献し、活躍できる人材育成のための学びの成果を披露する機会を提供する。

2 青少年の生涯学習の推進

ふるさとに誇りと愛着をもつ青少年の育成を進め、「高い志」と「生き抜く力」を身につけるための生涯学習の推進に努める。

3 高齢期の学習活動の推進

知恵や経験、技能を社会に生かし、次代へつなぐという崇高な目的の下、高齢期のいきがいとなる講座を充実する。

4 地域の人材発掘と養成

積極的に地域に参画する人材を掘り起こすとともに、人材育成のための時間を設け、その機会を創出する。また、地域の課題解決に向けて、子育て世代や生産年齢世代でも参加しやすい講座を企画する。

5 生涯学習の情報発信

	<p>社会教育施設で開設される各種講座や行事を全世代に発信していくために、様々な情報媒体を駆使し、目的や成果を意識した活動が展開されるように努める。</p>
<p>学識経験者の 意見</p>	<p>・未来を切り拓くひとづくりセミナー、放課後子ども教室の実施状況について、評価できる。</p>

項目	生涯学習によるまちづくり	担当課	文化・生涯学習課
目的・目標	<p>市民・行政・関係機関の連携及び協働を図り、学習活動を通じた地域コミュニティの活性化によるまちづくりに取り組む。</p> <p>市民一人ひとりが地域の担い手として、自助・共助の精神を大切にしながら、地域の課題に参画していくため、各地域コミュニティ団体の活動を支援する。</p> <p>また、人権を尊重し合う共生社会の実現のため、市民一人ひとりが多様な人権課題に向き合えるような講座を開設する。</p> <p>また、公民館を中心とした生涯学習によるまちづくりを推進していくため、地域総がかりで子どもたちが活躍する場を創出し、地域・学校・家庭・行政が連携、協働し、子どもたちの学びや育ちを支える。</p>		
実施状況・成果	<p>1 地域づくりの推進</p> <p>(1) 婦人会事業への支援</p> <p><u>令和3年度実施事業 20回 (目標値：年間11回以上)</u></p> <p>地域の課題を解決するため、各地域コミュニティ団体の活動支援を行った。</p> <p>(2) 公民館運営審議会の開催 (再掲)</p> <p><u>公民館運営審議会の開催 令和3年度 22回 (目標値：年間25回以上)</u></p> <p>(3) 人権教育講座及び人権教育指導者養成講座の開催</p> <p><u>令和3年度実施回数 17回 (目標値：年間22回以上)</u></p> <p>市民一人一人が人権問題を正しく理解し、人権感覚を身に付け、人権を尊重し合う共生社会の実現に努めた。</p> <p>2 地域学習の推進</p> <p>(1) 萩ユネスコ協会文化講演会の開催</p> <p><u>新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止となった。</u></p> <p><u>(目標値：年間100人以上)</u></p> <p>(2) 伝統芸能・地域文化教室の支援 (再掲)</p> <p>実施小学校数 17校 (100%)</p> <p>3 青少年の地域に関わる体験活動等の推進</p> <p>(1) ジュニアリーダーズクラブ事業の開催</p> <p><u>令和3年度実施回数 11回 (目標値：年間10回以上)</u></p> <p>様々な活動を通じて、社会の一員として社会貢献することの意義や責任を学び、子ども会活動の企画・運営を担った。</p>		

(2)家庭の日カレンダーの小中学校への配布

令和3年度小学校新生への家庭の日クリアファイル配布率 100%

(目標値：100%)

毎月第3日曜日の「家庭の日」について、家族がふれあう時間を共有し、コミュニケーションを図ることを目的に、各地域の青少年育成市民会議を通じ、市内全小学校に啓発グッズを配布した。

(3)親学講座、子育て講座、保護者カフェの開催（再掲）

令和3年度実施回数 44回（目標値：年間70回以上）

（子育て講座34回（内保護者カフェ6回） 親学講座10回）

令和3年度参加者数 997人（目標値：2,200人以上）

(4)放課後子ども教室を開催する小学校の割合

令和3年度割合 94%（目標値：100%）

それぞれの小学校区において、地域の特色を生かした放課後子ども教室を開催した。

(5)子ども会事業への支援

令和3年度実施回数 69回（目標値：年間25回以上）

少子高齢化が進み子ども会離れが進む中、各公民館が子ども会事務局を務め、指導者、育成者と共に工夫を凝らした取組を行った。

4 地域協育ネットの推進

(1)伝統芸能・地域文化教室を実施する小学校の割合

令和3年度 100%（目標値：100%）

(2)親学講座、子育て講座、保護者カフェの開催（再掲）

令和3年度実施回数 44回（目標値：年間70回以上）

（子育て講座34回（内保護者カフェ6回） 親学講座10回）

令和3年度参加者数 997人（目標値：2,200人以上）

(3)放課後子ども教室の開催（再掲）

実施回数 860回（目標値：年間1,150回以上）

(4)地域協育ネット活動を実施する中学校区の割合

令和3年度 100%（目標値：100%）

幼児期から中学校卒業程度までの子どもの育成・学習を地域ぐるみで見守り、支援するための地域協育ネットを全中学校区に設置し、家庭・学校・地域が連携した子育て活動の推進に努めた。

今後の取組

1 地域づくりの推進

	<p>地域住民が自助、共助の精神をもって、地域の諸課題の解決に取り組めるよう、地域活動の拠点である公民館が中心となって、コミュニティ活動の活性化を支援する。</p> <p>また、心身ともに健全な青少年の育成に努めるため、子ども会育成団体の相互の連絡調整及び活動の充実を図るとともに、女性の教養活動を支援するため、市内単位の婦人会相互の連絡調整を図るため、公民館が中核となって、活動を牽引する。</p> <p>2 地域学習の推進</p> <p>次世代に地域の歴史や文化、自然、産業等を語り継ぐことの大切さの観点から、伝統芸能・地域文化にふれあう機会の充実を図るとともに、地域の諸課題やまちづくりへ参画するための方策を模索する。</p> <p>3 青少年の地域に関わる体験活動等の推進</p> <p>幼少期からの切れ目のない家庭支援・地域支援の積み重ねの上に構築された「地域を愛し、社会に貢献できる」人材を育成するため、文化活動やボランティア活動への青少年の積極的な参加を推進する。</p> <p>4 地域協育ネットの推進</p> <p>コミュニティ・スクールを核とし、地域協育ネットの仕組みを生かして、社会総がかりで子どもたちの学びや育ちを支援していくことで、自己肯定感を高め、郷土愛に満ち溢れ、地域貢献・社会貢献に参画していく子どもたちを育成する。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小さいうちから、ジェンダー、障がい、人種など、分け隔てなくできる子どもの育成が必要であり、人権教育講座は子ども向けの講座も開催されており、評価できる。 ・ジュニアリーダーズクラブでは、大学生になっても、地域貢献活動を継続している学生もおり、インリーダー研修の取組をしっかりと周知してほしい。

項目	生涯スポーツの推進	担当課	スポーツ振興課
目的・目標	<p>全ての市民が、競技スポーツにとらわれず、グラウンド・ゴルフやウォーキング、体操など身近に行うことができるスポーツや運動をはじめ、自分にあったスポーツを主体的に行うことができ、いきいき暮らせるまちづくりを目指します。</p>		
実施状況・成果	<p>1 幼児期の体力の向上</p> <p>(1)総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団に係る周知（広報掲載等） <u>総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団に係る活動内容や、募集の周知を行った。（目標値：年1回以上）</u></p> <p>コロナの終息が見えない中ではあるが、新型コロナウイルス感染症対策への対応や、工夫を凝らしての実施方法の検討など行い、幼児や児童に対する安心・安全なスポーツ活動の場の提供を心がけた。</p> <p>2 生涯スポーツの推進</p> <p>(1)週1回以上スポーツをする成人の割合 <u>（目標値：65%以上）</u></p> <p>生涯スポーツにグラウンド・ゴルフを位置付け、総合型クラブとの協働により、大会を実施した。コロナ感染拡大の影響を考慮し、参加者数を制限したことから、参加者は54人であったが、参加者からは好評であった。また、児童館と協働で実施した「わくわくキッズフェスタ」において、グラウンド・ゴルフ体験会を行い、親子348人の参加があった。</p> <p>(2)体育施設の年間利用者数 <u>令和3年度 157,109人（目標値：400,000人以上）</u></p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の利用者を市内限定、又は、県内限定と利用制限を設けたことから、当初予定していた大会の実施ができなくなった。また、スポーツ大会などの実施率は、当初の年間のスケジュールに比べ、5割以上が感染拡大防止により中止となったことから、目標値には大きく届かなかった。</p> <p>また、各地域においても、スポーツ大会の開催を企画する等、スポーツに積極的に関わる取組を推進したが、コロナの影響もあり、参加者も集まらなかった。</p> <p>しかしながら、徹底した感染拡大防止対策に加え、市民1人1人が、感染症に対する意識が高く、感染拡大防止対策に努められたことから、施設利用者などからの感染者の発生はなかった。</p> <p>このほか、スポーツ大会等に係る情報を発信し、スポーツ活動の普及・啓発に</p>		

	<p>努めた。</p> <p>3 障がい者スポーツの推進</p> <p>(1)障がい者スポーツボランティアの参加者数 <u>（目標値：100人以上）</u></p> <p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止により障がい者大会などの実施ができなかった。</p>
今後の取組	<p>1 幼児期の体力の向上</p> <p>至誠館クラブ等と協働し、子どもたちが「楽しみながら」、「積極的に」体を動かすことを意図した運動など、スポーツの遊びを味わえる機会を提供できるよう、ACP（アクティブ・チャイルド・プログラム）を実践し、スポーツを好きになる子どもたちの育成に努める。</p> <p>2 生涯スポーツの推進</p> <p>グラウンド・ゴルフの普及や推進として、各地域の公民館やスポーツ推進委員等と協働し、大会や体験会の実施に努めるとともに、主に若い世代に対しても、学校・学校活動での指導を行うなど普及を努める。</p> <p>3 障がい者スポーツの推進</p> <p>社会福祉協議会や障がい者スポーツ協会と連携し、大会の実施や障がい者スポーツボランティアの育成に努める。</p> <p>令和3年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止などにより、スポーツ活動や大会など、いろいろな面で規模縮小や活動範囲に制限をかけてきた。</p> <p>今後、パラスポーツを通じた共生社会の実現を目指すため、障がいの有無に関わらず「いつでも、どこでも、誰とでも」楽しめる取組を行うため、パラリンピックの正式種目である、ボッチャ競技の普及に努める。</p> <p>市民の皆様の安心・安全なスポーツの場の提供に努め、参加される方々のスポーツの推進に繋げていきたい。</p>
学識経験者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者スポーツの競技普及の取組について評価できる。 ・至誠館クラブでは、ヨガ、太極拳、アーチェリーなどを実施している。子どもの体操教室は、定員を超える申込みがあるが、他の種目はまだまだ参加が少ないので、しっかり周知をしてほしい。 ・地域部活動への移行について、総合型地域スポーツクラブと連携して取り組んでほしい。

項目	競技水準の向上	担当課	スポーツ振興課
目的・目標	<p>優秀な選手の育成のために、中・長期的な観点から計画的に選手及び指導者の育成等に取り組み、優れた選手と指導者の活用により、地域の競技水準の向上を目指す。</p>		
実施状況・成果	<p>1 競技水準の向上</p> <p>(1)全国大会等へ出場する選手</p> <p><u>令和3年度 21件（目標値：年間85件以上）</u></p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大防止により、一部全国大会が中止となった。</p> <p>数少ない全国大会に出場する個人及び団体に対して補助を行うことにより、優れた選手等の育成に資する取組を実施した。</p> <p>体育協会やスポーツ少年団の取りまとめ、新型コロナウイルス感染症に対する感染拡大防止対策の周知に努め、関係団体からの感染者の発生はなかった。</p> <p>本市在住のオリンピックを引き続き支援するため、川上特設カヌー競技場の練習環境の整備及び練習日程の調整を行った。</p> <p>また、オリンピックの開催を記念するイベントとして、オリンピックによる卓球教室をオンラインで開催した。</p>		
今後の取組	<p>1 競技水準の向上</p> <p>オリンピック開催により、高まった機運を継続できるよう、各競技団体などが行う大会への参加について、今まで以上に周知に努め、スポーツの参加率の向上を目指す。</p> <p>若者の人材育成を図るため、オリンピックなどのトップアスリートとの交流を推進するなど、未来への夢や希望を抱く機会の提供に努める。</p> <p>今後も萩市体育協会、スポーツ少年団、各競技団体等との連携強化及び全国大会等出場者への支援に努める。</p>		
学識経験者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・カヌー以外にも、石川佳純選手とのオンラインによる卓球教室を開催するなど、評価できるので、継続してほしい。 ・川上地域でのカヌーイベント、小中学生参加の取組について評価できるので、継続してほしい。 		

項目	人材の育成（スポーツ）	担当課	スポーツ振興課
目的・目標	<p>次代を担う子どもたちの心身をスポーツによって健やかにたくましく育むとともに、公正・規律を尊ぶ人間性の涵養^{かんよう}に取り組む。また、スポーツ指導者やボランティア等スポーツを支える人材を育成する。</p>		
実施状況・成果	<p>1 将来のスポーツ活動を担う人材の育成</p> <p>(1) 小学4～6年生のスポーツ少年団・総合型地域スポーツクラブ等加入率 <u>令和3年度 39.8% (目標値：40%以上)</u></p> <p>スポーツ少年団や体育協会加盟団体の指導者に対し、令和3年度も指導者講習会を実施することができなかった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症に関しては、体育協会やスポーツ少年団に対して、感染拡大防止対策の徹底に努めたことから、関係団体からの感染者の発生はなかった。</p> <p>2 地域のスポーツを支える人材の育成</p> <p>(1) スポーツボランティアの参加者数 <u>令和3年度 980人 (目標値：年間累計1,600人以上)</u></p> <p>萩城下町マラソンや萩市民駅伝大会の開催に当たり、延べ約1,500人以上のスポーツボランティアや地域住民のボランティアの方々に協力を依頼していたが、大会直前で、萩市民駅伝大会などの大会が中止となった。</p> <p>スポーツ推進委員の研修会も、県、中国地方、全国での研修会は中止となったが、各自で自己研鑽^{けんざん}に努めた。</p>		
今後の取組	<p>1 将来のスポーツ活動を担う人材の育成</p> <p>指導者の育成について、引き続きスポーツ少年団指導者連絡協議会や体育協会と総合型地域スポーツクラブと協働するとともに、大学などの教育機関とも積極的に連携を図り、指導者の育成に努める。</p> <p>また、合宿誘致等によるスポーツ人材の育成として、トップアスリートとの交流機会を創出し、将来的にトップアスリートを目指す子どもたちの育成に努める。</p> <p>2 地域のスポーツを支える人材の育成</p> <p>スポーツボランティアの育成について、広報はぎの活用やSNS等による周知のほか、気軽にボランティアに参加できるスポーツイベントの開催に努める。</p> <p>スポーツ推進委員については、各地域でのスポーツ活動のボランティアにとどまるのではなく、積極的な自主活動でのスポーツ推進が求められることから、今後も</p>		

	研修会への参加を呼びかけるなど、主体的な活動につながるよう支援に努める。
学識経験者の 意見	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団は保護者の送迎等の負担が大きく、加入が減少傾向と聞いている。保護者の負担が減り、子どもの参加が増えるような取組を進め、競技人口が増えるような環境づくりをお願いする。 ・指導者の育成について、小学生の指導者だけでなく、中学校やクラブチームの指導者を含めた研修が予定されており評価できる。 ・親子で参加できるスポーツ大会など、スポーツに興味を持つ環境づくりを進めてほしい。 ・合宿誘致やトップアスリートとの交流の機会を増やしてほしい。

項目	スポーツの推進による交流人口の拡大及び地域の活性化	担当課	スポーツ振興課
目的・目標	地域特性を考慮し、スポーツの有する多様な可能性を活用するとともに、市民が主体となって推進されるスポーツ活動の環境づくりへの取組を通じ、交流人口の拡大による地域の活性化を促進する。		
実施状況・成果	<p>1 スポーツの推進による交流人口の拡大及び地域の活性化</p> <p>(1) スポーツイベントの参加者数</p> <p><u>令和3年度 1,749人（目標値：年間累計6,000人以上）</u></p> <p>本市のスポーツ振興の主要事業である萩城下町マラソン、萩往還ワンデーウォークのほか、競技団体等が実施する大会等に対して支援を行った。</p> <p>しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、萩市駅伝競走大会などの大会が中止となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内スポーツイベントの運営に係る補助・支援 <p>① 萩城下町マラソン大会</p> <p>一昨年、通常の大会から代替大会として1,000人規模で開催予定したが、大会直前での感染状況により中止となった。昨年は、参加者を県内限定として、1,500人規模で開催した。</p> <p>大会開催を実施できたことに関して、参加者から好評であった。</p> <p>② 萩往還ワンデーウォーク</p> <p>令和3年度も、通常の萩往還コースの一部を使用して、佐々並地域をスタート・ゴールとする市内周遊コースで、参加募集定員の300人での実施となった。参加者からは好評であった。</p> <p>※このほか、駅伝大会なども通常どおりの大会は中止となったが、コース変更や規模などを検討し、実施できる大会は実施してきたが、直前での市内や周辺での感染状況により中止となった大会もあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界大会等キャンプ地誘致推進事業 <p>オリンピック競技大会がコロナ感染症の拡大により一年延期された。キャンプ地誘致に関して、外国からの選手の招致となるが、コロナ感染症の影響により、滞在中に来萩することが困難となり、招聘することができなかった。</p> <p>また、キャンプ地の誘致活動に合わせ、山口県カヌー協会に委託し、カヌー体験教室を実施した。</p>		

	<p>開催実績 6月から11月まで全23回</p> <p>延べ98人参加（前年比 参加者210人減）</p> <p>コロナ感染症の影響により、参加者数が大幅に減少した。</p>
今後の取組	<p>1 スポーツの推進による交流人口の拡大及び地域の活性化</p> <p>地域の観光資源の創出、地域におけるスポーツの振興等を図るため、引き続き、各競技団体と連携・協力し、スポーツ大会等の実施を支援する。</p> <p>萩城下町マラソン大会、萩往還ワンデーウォーク、駅伝大会等のスポーツイベントについては、市外からの参加者も多く、地域の活性化を図る目的においても重要であるため、引き続き開催を支援する。</p> <p>オリンピックの開催後、市民のスポーツに対する関心が高まった状態を継続できるよう、各競技団体などと協働し、今まで以上にスポーツ教室の実施などに努める。</p> <p>また、オリンピック出場選手との交流イベント等による若者の育成等に努める。同時にカヌー体験教室の実施により、地域住民等にカヌー競技が親しまれるよう、地域と一体となって周知活動に努める。</p>
学識経験者の意見	<p>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、大会等中止する場合の判断基準について、随時、基準を見直し、状況に応じて、実施できる形式を検討してほしい。</p>

項目	図書館運営を通じた官民協働及び読書活動の推進	担当課	萩図書館
目的・目標	NPO萩みんなの図書館との協働や地域住民のボランティアの活用により、市民の豊かな知識や経験、技能等を図書館運営に生かした共助による読書活動を推進する。		
実施状況・成果	<p>1 NPO萩みんなの図書館との協働による図書館運営</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のための対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨時休館 (1/19～1/31 13日間) ・17時閉館 (2/1～2/28 28日間) ・19時閉館 (3/1～3/31 31日間) <p>萩図書館運営実績等 (前年比)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 利用者数 75,981人 (+5,540人) ② 貸出点数 240,863点 (△830点) ③ レファレンス件数 361件 (+66件) ④ 受入蔵書数 5,298冊 (△1,085冊) ⑤ 受入電子書籍数 128冊 (△248冊) ⑥ NPO主催行事 137回 (+27回) ⑦ NPO主催展示 245回 (+190回) <p>利用者数や行事・展示等の開催数等は、前年度よりも増加した。貸出点数は減少したが、前年の減少幅の半分に留まった。</p> <p>2 NPO会員による自主活動</p> <p>環境美化班、読み聞かせ班、イベント班、図書整理班、寄贈本仕分班、歴史関係読書班、喫茶運営班、楽しい音読班等の自主活動として、おはなし会、図書館まつり、古本市等の開催のほか、門松づくり、季節ごとの環境整備等を実施した。</p> <p>喫茶・軽食コーナー「カフェぶらり」は、座席数を減らすなど、コロナ対策を万全にし、市民交流の場として幅広い層に利用された。新型コロナウイルス感染症の影響で、営業利益は赤字となったが、市民の憩いの場として利用された。常設古本コーナー「ブックぶらり」においては、寄贈本の有効活用が図られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 会員数 103人 (2) 活動班 8班 (3) NPO主催行事・活動 		

	<p style="text-align: center;">(前年比)</p> <p>①おはなし会 26回 282人 (△6回 △56人)</p> <p>②わくわくキッズフェスタでの読み聞かせ 24人 (△18人)</p> <p>③市民向け音読会 3回 17人 (△2回 △19人)</p> <p>④市民病院の図書整理 10回 (+4)</p> <p>3 レファレンス専門員の活用</p> <p>郷土史、維新史等に関する知識を生かし、レファレンス対応を行った。前年度はコロナ禍により開催できなかったミニ歴史講座は、参加人数を制限し開催した。</p> <p>専門員によるレファレンス対応 93日 18件 延べ18人 (前年比 +4日 +1件 +1人)</p> <p>ミニ歴史講座 6回 延べ38人 (前年比 +6回 +38人)</p>
今後の取組	<p>1 NPO萩みんなの図書館との協働による図書館運営</p> <p>図書館業務の更なる充実及び効率化を図り、継続して職員の資質向上に努め、幅広い分野の選書に努める。</p> <p>2 NPO会員による自主活動</p> <p>各班での自主活動をより活発化し、図書館運営を支える。</p> <p>3 レファレンス専門員の活用</p> <p>郷土史及び維新史関係のレファレンス対応を行うとともに、ミニ郷土史講座「夏の歴史館」を開催する。</p>
学識経験者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の減少、参加人数の減少については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策によるものであるため、やむを得ない。 ・受入蔵書数の減少は、寄贈の減少によるものであるため、やむを得ない。

項目	家庭・地域・学校・図書館での子どもの読書活動の推進	担当課	萩図書館
目的・目標	家庭、地域、学校及び図書館の役割の明確化並びに当該役割に応じた主体的な取組の推進を図るとともに、相互連携のためのネットワークの構築を行う。		
実施状況・成果	<p>1 家庭・地域での読書活動推進</p> <p>(1) 10ヶ月児健康相談での読書案内及びハローブック事業の啓発 7回 参加者 39組 (前年比 △2回 △28組)</p> <p>(2) 移動図書館車による保育園等への巡回及び読み聞かせの実施 萩図書館 巡回・貸出 17園 14, 156冊 (前年比 ±0園 +5, 967冊) 読み聞かせ 4園 65回 (前年比 ±0園 △19回) 須佐図書館 巡回・貸出 3園 1, 046冊 (前年比 ±0園 △553冊)</p> <p>(3) 児童館や公民館等との連携による子どもの読書活動 萩図書館 行事 1回、参加者 24人</p> <p>移動図書館車については、新型コロナウイルス感染拡大防止等のため、園の希望により巡回や読み聞かせを休んだため、減少した。</p> <p>2 学校での読書活動推進</p> <p>(1) 団体貸出の実施 (前年比) 貸出実績 ①萩図書館 7校 4, 230点 (△1, 536点) (うち、中学校 5校 1, 800点) ②須佐図書館 4校 882点 (+46点) (うち、中学校 2校 52点) ③明木図書館 3校 638点 (△206点) (うち、中学校 1校 181点)</p> <p>萩図書館、明木図書館は小中学校からの依頼が減ったため、減少した。</p> <p>(2) 小学校及び中学校に対する調べ学習用資料の貸出 (前年比) 貸出実績 ① 小学校 1回 20冊 (△17回 △290冊) ② 中学校 4回 49冊 (△6回 △121冊)</p>		

(3) 移動図書館車の学校への巡回、読み聞かせ及び出前講座の実施による読書の推進

移動図書館巡回実績 (前年比)

① 萩図書館 15校 貸出 6,743冊 (+228冊)

(読み聞かせ 1校 9回) (△2校 △52回)

② 須佐図書館 4校 貸出 2,472冊 (△1,209冊)

読み聞かせ開催実績 (前年比)

① 須佐図書館 2校 14回 (△2回)

② 明木図書館 1校 3回 (△3回)

(前年比)

出前講座開催実績 ① 萩図書館 5校 12回 (+2校 +9回)

(うち、中学校 4校 6回)

② 明木図書館 1校 3回 (±0校 +2回)

(うち、中学校 1校 2回)

3 図書館での読書活動推進

(1) おはなし会、子ども向け行事等の開催 (前年比)

開催実績 ① 萩図書館 108回 1,096人 (△32回 △185人)

② 須佐図書館 9回 184人 (±0回 △257人)

③ 明木図書館 35回 338人 (△1回 △4人)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、おはなし会等の行事を中止した。

(2) 読書通帳の活用

読書通帳発行部数 年間 238冊 (前年比 △65冊)

今後の取組

1 家庭・地域での読書活動推進

(1) 10ヶ月児健康相談等での読書案内、おはなし会等、館外での読書啓発を継続して実施する。

(2) 移動図書館の巡回先で読み聞かせ等を行い、読書の楽しさを味わってもらう。

(3) 児童館や公民館等と連携し、読書啓発に努める。

2 学校での読書活動推進

(1) 小学校に向けた单元ごとの調べ学習用図書の貸出で学校支援の更なる充実を図る。

(2) 中学校でもブックトークやビブリオバトル、ライぶらりなどの出前講座を積

	<p>極的に行い、読書への動機付けとなる機会を増やしていく。</p> <p>3 図書館での読書活動推進</p> <p>図書館行事及びテーマに沿った図書展示等を継続して行い、子どもの読書活動の啓発に努める。</p>
学識経験者の意見	<p>・小中学生に電子図書館の使い方を教えるなど、積極的に出前講座を実施しており、評価できる。</p>

項目	子どもの読書活動推進のための環境整備及び推進者への支援	担当課	萩図書館
目的・目標	子どもに読書の習慣をつけさせるとともに、知識及び想像力を養うため、資料の充実及び施設等の整備を推進する。また、読書活動を支援する専門的職員の資質向上及び学校等で活動する読書ボランティアへの支援を図る。		
実施状況・成果	<p>1 蔵書の充実</p> <p>子どもの発達段階に応じた乳幼児コーナー、児童コーナー及びティーンズコーナー並びに外国語を母国語とする子どものための外国語図書コーナーを設置する等、蔵書の充実を図っている。</p> <p style="text-align: right;">(前年比)</p> <p>児童図書の新規受入数 ① 萩図書館 1, 120点 (△221点) ② 須佐図書館 331点 (△8点) ③ 明木図書館 257点 (+14点)</p> <p>受入数の減少は資料単価の値上がりによるもの。</p> <p>2 特集展示の充実</p> <p style="text-align: right;">(前年比)</p> <p>① 萩図書館 22回 (△36回) ② 須佐図書館 20回 (+2回) ③ 明木図書館 21回 (±0回)</p> <p>3 電子図書の充実及び利用促進</p> <p style="text-align: right;">(前年比)</p> <p>電子図書利用実績等 ① 新規購入数 82点 (△294点) ② 貸出数 3, 374回 (+1, 123回) ③ 閲覧数 5, 342回 (+2, 572回)</p> <p>小中学生に電子図書館利用のためのID・パスワードを配布したことにより、利用が増えた。</p> <p>4 読書に障がいのある子どもへのサービス</p> <p>2019年6月に「読書バリアフリー法」が成立し、合理的配慮が義務化されたことから、点字図書、音声図書、拡大文字図書、LLブック、布の絵本、マルチメディアデージー図書等（以下「点字図書等」という。）を充実した。活字を読むのが難しい子どもが利用できる読書環境の整備を行っている。新たにマルチメディア</p>		

デジタライズ図書が視聴できる機器を設置し、バリアフリーコーナーの充実を図った。

(前年比)

点字図書等所蔵数	点字図書	48冊 (+4冊)
	音声図書	102点 (+16点)
	拡大文字図書	45冊 (±0冊)
	LLブック	22冊 (+2冊)
	布の絵本	36点 (±0点)
	マルチメディアデジタライズ図書	44点 (+2点)

5 読書活動ボランティアの活動支援

コロナ禍のため、予定していたボランティア対象の修理本講座や手袋人形づくり講座、子ども読書活動推進委員会は全て中止となった。

6 図書館職員の資質向上

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの研修が中止となったが、その中でも子どもと本を結びつける技術の向上を図るため、研修等に参加した。

(前年比)

研修参加実績	① 萩図書館	外部研修への参加	5回 (+1回)
		館内研修の実施	19回 (+2回)
	② 須佐図書館	外部研修への参加	1回 (△2回)

今後の取組

1 蔵書の充実

子どもの幅広い知的要求に応えるため、蔵書の一層の充実に努める。

2 特集展示の充実

子どもたちの関心をひく特集コーナー作りに努める。

3 電子図書の充実及び利用促進

電子図書館の利用を更に促進するために、学校への出前講座を積極的に行い、電子図書館の利用促進に努める。

4 読書に障がいのある子どもへのサービス

LLブックや点字図書等の資料を充実する。市内小中学校、支援学校やドリームスクールはぎ、ピアサポートセンター香生の里等の福祉施設などに、バリアフリーコーナーの周知に努める。

5 読書活動ボランティアの活動支援

萩市内の読書活動団体及び学校図書館支援員との連携強化を図り、研修会等の開催による資質向上及び人材育成に努める。

6 図書館職員の資質向上

山口県立図書館等が実施する外部研修等やwebで開催される研修等に積極的

	に参加し、子どもと本を結びつける技術の向上に努める。
学識経験者の 意見	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生の電子図書館利用について、学校により利用率にバラツキがあるため、家庭でも利用してもらえるよう、使い方のマニュアルなど、周知をしっかりと行ってほしい。 ・電子図書の新規購入数について、利用状況を見ながら検討してほしい。 ・読書活動のボランティア団体と学校図書館支援員とのつながり、連携を強化してほしい。

項目	読書活動への理解と関心を深めるための啓発活動	担当課	萩図書館
目的・目標	読書の意義及び重要性について、各関係機関と連携を図りながら、講演会、イベント、図書館見学、職場体験等の実施を通じ、市民の理解及び関心の醸成を図る啓発活動を進める。		
実施状況・成果	<p>1 各機関との連携</p> <p>児童館やNPO法人読書普及協力チーム山口等、各機関との連携事業及び行政職員への積極的な情報提供の実施</p> <p>(1)各機関と連携して事業を実施</p> <p>連携機関 児童館、至誠館大学、税務署、児童クラブ、市役所各課、NPO法人読書普及協力チーム山口など</p> <p>(2)行政職員へ毎月新刊情報を提供</p> <p>2 図書館見学及び職場体験の受入れ</p> <p>小学生の図書館見学及び中学生等の職場体験の受入れを実施</p> <p style="text-align: right;">(前年比)</p> <p>受入実績 ① 萩図書館 見学4回、職場体験11人(±0回、+4人)</p> <p style="padding-left: 40px;">② 須佐図書館 見学4回、職場体験2人(±0回、+2人)</p> <p style="padding-left: 40px;">③ 明木図書館 見学3回、職場体験1人(±0回、+1人)</p> <p>3 啓発・広報活動の推進</p> <p>読書活動及びイベントに関する情報をホームページやブログ、地域メディア等を利用して発信するとともに、イベント等の開催や展示のほか、萩図書館内に職員おすすめの本のコーナーを設置するなど、読書活動の推進の広報に努めた。</p> <p>イベント等の開催実績 (前年比)</p> <p>①萩図書館</p> <p style="padding-left: 40px;">行事 一般向け 30回(△1回)</p> <p style="padding-left: 80px;">児童向け 107回(△33回)</p> <p style="padding-left: 40px;">展示 一般向け 79回(+23回)</p> <p style="padding-left: 80px;">児童向け 60回(±0回)</p> <p>②須佐図書館</p> <p style="padding-left: 40px;">行事 一般向け 1回(△3回)</p> <p style="padding-left: 80px;">児童向け 6回(△3回)</p> <p style="padding-left: 40px;">展示 一般向け 10回(△5回)</p> <p style="padding-left: 80px;">児童向け 13回(±0回)</p>		

	<p>③明木図書館</p> <table> <tr> <td>行事</td> <td>一般向け</td> <td>1回</td> <td>(±0回)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>児童向け</td> <td>35回</td> <td>(△1回)</td> </tr> <tr> <td>展示</td> <td>一般向け</td> <td>31回</td> <td>(+15回)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>児童向け</td> <td>21回</td> <td>(±0回)</td> </tr> </table> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、計画した行事を中止した。</p>	行事	一般向け	1回	(±0回)		児童向け	35回	(△1回)	展示	一般向け	31回	(+15回)		児童向け	21回	(±0回)
行事	一般向け	1回	(±0回)														
	児童向け	35回	(△1回)														
展示	一般向け	31回	(+15回)														
	児童向け	21回	(±0回)														
今後の取組	<p>1 関係機関との連携</p> <p>引き続き関係機関との連携により、幅広い図書館活動を展開し、乳幼児から高齢者まで、幅広い年齢層を対象とした事業を行う。</p> <p>2 図書館見学及び職場体験の受入れ</p> <p>図書館見学及び職場体験の受入れにより、図書館利用のきっかけ作りを支援する。</p> <p>3 啓発・広報活動の推進</p> <p>読書普及活動及びイベントに関する情報をホームページやSNSを使って積極的に市民へ情報発信し、関係機関、団体等への情報提供に努める。</p>																
学識経験者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの周知について、ホームページやSNSだけでなく、児童・生徒にもプリントやポスター掲示など、いろいろな方法で周知をしてほしい。 ・一般向けのイベント情報等についても、高齢の方もいらっしゃるのでは、市報などの紙面による周知を行った方が良いのではないかと。 ・子どもの頃から、図書館を身近に感じられる取組を行ってほしい。 ・学校で学んだことを、図書館で時間をかけて調べることができる時間をもっと増やしてほしい。 																